学長式辞

挑戦し続けた経験が自らを支える

馬塲　杉夫

桜のつぼみが暖かい陽光に照らされ、力強く咲き誇ろうとするこの佳き日に、学士課程、修士課程、博士後期課程、法科大学院の課程を修了され、卒業を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。深い愛情と温かい支援をいただきました保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

さて皆さんは、コロナ禍が徐々に落ち着きを見せ始めた時期に入学されました。対面による教室での学び、友との語らい、先生方からの指導を受け、大変立派に成長して今この場にいます。これほどの成長を遂げることができたのは、どのような経験が糧になったのでしょうか。単位を一つ一つ積み重ねていく過程も感慨深いものがあると思いますが、何よりも自ら目標や課題を掲げ、それに向かって挑戦し続けてきた経験こそが、皆さんの心に深く刻まれているのではないでしょうか。その経験は、たとえ望まない結果であったとしても、これから長きにわたって皆さんを支え続けると信じています。

現在、世の中は不安定です。世界情勢は落ち着かず、生成ＡＩの急激な進展・普及によって、求められる知識が日々変わるとともに、望ましい仕事のあり方も議論されています。そうした状況には、受け身の学びでは決して対応することができません。自分を支える力となるのは、主体的に挑戦し続ける行動です。これは専修大学が掲げる21世紀ビジョン「社会知性の開発」の実現にほかなりません。

皆さんにとって、本学で得た成長体験は最も大切な宝であると思いますが、もう一つ掛け替えのない宝を手にしています。それは本学出身の先人の方々の働きです。皆さんの先輩には自ら挑戦し、社会に貢献してきた方々がたくさんいます。日本では数少ないユニコーン企業を起業された方や住宅会社を創業された方、そのほかにも小売業界、酒類業界、医薬品卸売業界など、それぞれのトップ企業の経営者も皆さんの先輩です。

このような先人と同じく、本学を卒業される皆さんには、挑戦し続ける力が宿っています。今こそ学んだ力を生かし、社会知性の開発を実践するときです。皆さんの限りなき希望、輝かしい未来を祈念して、私からの式辞とさせていただきます。

本日は、おめでとうございます。

（要旨）

祝 卒業・修了

総長祝辞

新たな分野へ歩き出す転換点

日髙　義博

学部を卒業される皆さん、大学院で学位を取得された皆さん、おめでとうございます。この間、さまざまなご支援、ご尽力をいただいた保護者の方々にも厚くお礼申し上げます。

本日、皆さんは学位を取得されましたが、卒業式は学位取得を祝う日というだけではありません。これから新たな分野に向けて歩き出す転換点でもあります。

まさに、人生の節目なのです。

私もここ武道館で１９７０年に学位記を授与されました。当時総長であった川島正次郎先生のスピーチを鮮明に覚えています。私たち卒業生に対して「泥にまみれた著名人になるよりも、世の人の地の塩となれ」という旨の言葉を残して去られました。いまだにその言葉はさまざまな節目に浮かんできます。専修大学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発（Socio-Intelligence）」の考え方を突き詰めると、川島先生の言葉にもつながっていきます。

私は卒業式を迎えたときに、研究者の道を歩む決意を新たにしました。どういう道を歩くのか想像もつきませんでしたが、研究者の道を丸腰で歩くしかないという覚悟をしてこの場にいたことを覚えています。

幸い、学生時代にいくつもの法律討論会等を経験したこともあって、その道を歩くために何をなすべきかをつかみました。「学は人なり」という言葉を信じて、研究者の道を歩きました。本当に曲がりくねった道でしたが、それを歩くことによって自分の刑法学を確立することができました。

どんなに厳しい道であっても、歩くのは自分です。

自分を捨ててはいけません。自分の心の中に秘めたものを持って歩けば、必ずや節目節目に出合うべき人に出合って道は開けます。

21世紀ビジョンにある「Ｓｏｃｉｏ」は通常、「社会」と訳しますが、ラテン語・ドイツ語辞典を引くと、「社会の中にあって社会に立つ」という言葉があります。皆さん、自分の切り開く分野で社会の中にあって社会に立ってください。沈んではいけません。

人の信頼を得て活躍してください。在学中に得た知力、人間力、人脈を最大限に使って、まい進してください。

皆さんの活躍と後輩に送り届ける光を期待しています。校歌にある通り、「我等が行く手は光に充てり」です。皆さんの活躍を期待し、第９代総長の祝辞といたします。

（要旨）

揮毫　松尾 治（号：鴻）

文学部日本文学文化学科准教授（書作家）

「才徳相承」とは中国６世紀、北魏時代の碑文「鄭羲上碑・鄭羲下碑」にあることばです。素晴らしい才覚や人間性が代々受け継がれていくことを意味します。同じ意味のことばに「師資相承」があります。

理事長祝辞

培った学びが人生の羅針盤に

松木　健一

学部学生、大学院生の皆さん、ご卒業および修了、誠におめでとうございます。ご家族ならびに関係者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

昨今の自然災害や拡大する紛争。また、ＡＩ活用が社会の急速な構造転換にどのような影響を及ぼすのか、信頼性に対する疑問は残るものの、それを解決するのは人間であるとも指摘されており、今後ますますその活用が進むでしょう。こうした変化に対応していくためには、本学で学んだ基礎力と倫理観がこれまで以上に強く求められます。

専修大学で学び、過ごした時間は、これからの人生において大きな意味を持ちます。授業や研究を通して得たかけがえのない友人や先輩、後輩、諸先生や職員等との交流は、皆さんが今後、卒業生・校友として「社会で有為な人材」として活躍されることを大いに期待しております。

社会が大きく変化するなかで忘れてはならないのは、自分が何によって生かされてきたかを考え、常に挑戦し続け、学び続ける姿勢です。１８８０（明治13）年に誕生した専修大学は、建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を継承し、21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、教育・研究の向上および社会貢献に取り組んでいます。

皆さんは本日より、歴史と伝統、そして建学の精神を引き継ぐ33万人の校友の一員となります。本学で培った学びや経験は、今後の人生を切り開く羅針盤の役割になるものと確信しています。「社会知性」を備えた社会に有為な専修人として、人間の尊厳を忘れることなく、心豊かで充実した人生を歩まれますことを心より祈念し、祝辞といたします。

最後に、保護者、育友の皆様、本学発展のためご支援をいただき、深く感謝申し上げます。今は変化の激しい時代ですので、時には進路の変更も余儀なくされることもあるかもしれません。本学はリカレント教育や卒業生のための就職相談等の窓口も設けております。今後ともご縁を大切に、ご家族の皆様と共に卒業生への支援を続けてまいります。

（要旨）